

法政大学大原社会問題研究所

所 報

(2009. 1. 1～ 1.31)

□刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』604号 (2009年2月)

□図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	68	22	90
受 贈	32	1	33
合 計	100	23	123

□閲覧サービス

閲覧

開館日数	21日
閲覧人員	23名
貸出図書	32冊

コピーサービス

学外	17件	6505枚
学内	7件	9655枚

日 誌

- 8日 この日より開館
- 16日 OISR.ORGに「協調会史料第2集」新規公開
- 20日 事務会議
- 21日 OISR.ORGに全通権利闘争裁判関係資料インデックス新規公開
- 運営委員会
- 議題①運営委員の改選について
- ②副所長の改選について
 - ③兼任研究員の再任について
 - ④嘱託研究員の承認について
 - ⑤研究所指定寄付金の募集開始について
 - ⑥08年度総会について
 - ⑦その他

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

24日 加齢過程における福祉研究会

テーマ：「小規模多機能ホーム薬師堂の経験から」

講師：平良真吾氏 (医療法人平真会事務長)
高橋綾子氏 (小規模多機能ホーム薬師堂・管理者)

永井敦子氏 (介護支援専門員)

現代労使関係・労働組合研究会

テーマ：「近年のイギリス公務部門労働組合の構造と機能」

報告者：松尾孝一氏 (青山学院大学経済学部准教授)

テーマ：「大学改革と新自由主義—オーストラリアを事例として」

長峰登記夫氏 (法政大学人間環境学部教員)

28日 研究会議

月例研究会

テーマ：「無償労働評価の方法および政策とのつながり」

報告者：橋本美由紀

大原社会問題研究所雑誌 No.607 (2009年5月号)

2009年5月25日発行

定価 1,000円 (本体952円), 年間購読料12,000円

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所

編集長 鈴木 玲

所 長 五十嵐 仁

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042 (783) 2307

投稿募集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿ください。

投稿規定

- 1 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
- 2 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
- 3 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
- 4 原稿の本文や注などで、執筆者が特定される記述をしないでください。
- 5 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
- 6 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
- 7 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

【原稿送付先】

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

論文執筆要領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

原稿はある程度の行間を取ってプリントアウトしてください。原則として原稿は返却しませんので、控えを確保して下さい。

- 1 一般的な原則
 - ① 横書きとする。
 - ② タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。
 - ③ 目次と本文の各節には「.」のない1 2…を用い、「はじめに」「おわりに」には番号を付さない。
 - ④ 原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。
 - ⑤ 注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。
 - ⑥ 図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。
- 2 注記の方式
 - 日本語の図書・論文の場合
 - A 日本語で書かれた図書については、①著者名、②書名（書名は『 』で囲む）、③出版社名、④発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。
 - B 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「他」の方式も可とする。
 - C 論文については、①執筆者名、②論文名（「 」で囲む）、③掲載雑誌名（『 』で囲む）、④巻号、⑤発行年月日の順に書く。
 - D 注の最後は、かならず「。」で止める。
 - 欧文の図書・論文の場合
 - A 欧文の図書については、①著者名、②書名、③発行地（あるいは出版社名）、④出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。
 - B 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。
 - C 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。
 - D 注の最後は、かならず「.」で止める。

以上